

日本の紅(あか)をつくる町
もちろん今年も日本一

8月24日、県産紅花加工品の収納検査が山形市で行われました。

検査は、紅花加工品である「紅餅」と「乱花」、「すり花」を対象に行われ、出荷前にその品質がチェックされました。町からは、県紅花生産組合連合会(大内理加会長)に所属する紅花生産者の皆さんなどが出席。今年も「日本の紅(あか)をつくる町」のロゴが入った赤いウェアやオレンジ色のTシャツでそろえて紅花

加工品

を持ち込みました。

今年も春先の低温や収穫時の降雨などにより、県全体で240キと昨年度より13%の減。そのような中、白鷹町は紅餅122・3キ、乱花36・2キ、すり花2・0キ、計160・5キを出荷(「白鷹紅の花を咲かせる会」調べ)。県全体の66・8%を占め、今年も「日本の紅(あか)をつくる町」は、紅花生産日本一です。



1_机の上に紅餅を広げる生産者の皆さん
2_白鷹町の紅餅は「品質が良い」と高評価

西置賜1市3町及び西置賜行政組合が
県南生コンクリート協同組合と協定を締結

長井市、白鷹町、飯豊町、小国町及び西置賜行政組合が8月7日、県南生コンクリート協同組合(那須猛理事長)と「災害時における消防用水の供給支援に関する協定」を締結しました。

協定締結により、地区内で火災等の大規模な災害が発生した際に、同組合加盟社が所有するミキサー車から消防用水の供給支援を受けることができるようになりました。

締結式は西置賜行政組合消防本部で行われ、各首長と那須理事長が協定書を取り交わしました。佐藤町長は「町の水利施設については課題となっていたのでありがたい。今後も連携を深めて町民の皆さんの安心安全を守っていききたい」とあいさつし、那須理事長は「災害がないに越したことはないが、万が一のときは精一杯協力させていただく」と述べました。



左から仁科小国町長、内谷長井市長、那須理事長、佐藤白鷹町長、後藤飯豊町長



外の景色を車内から眺めながら談笑した

荒砥高校生による福祉ボランティア
白光園利用者とフラワー長井線に乗車

荒砥高校生が8月17、18日の2日間、特別養護老人ホーム白光園(児玉裕継園長)の利用者と一緒にフラワー長井線に乗るボランティア活動を行いました。

今回は西大塚駅から荒砥駅までの道のりを、自己紹介などの会話を楽しみなが

ら移動。利用者の藤守つやさん(畔藤)は「最後に乗ったのは10代の頃、楽しかったのでまた乗りたい」と笑みを浮かべ、荒砥高校の松野ひかりさん(十王)は「皆さんとても元気でフレンドリーだった」と車内での会話を振り返りました。